

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入)4670105073
法人名	有限会社 いろり
事業所名	グループホーム いろりの家
所在地 (電話番号)	鹿児島市下福元町5498 (電話)099-262-4647
評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成20年3月18日

【情報提供票より】(平成 20 年 2 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	7 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7.6 人

(2)建物概要

建物形態	併設		
建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階	~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,400 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(平成20年2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 92 歳	最低	61 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	・三宅病院 ・古川胃腸科クリニック ・ゆのうえクリニック
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市郊外の住宅地にあり、近くに大学があるためアパート暮らしの若者と古くからの住民とが混在する場所に建っている。一階がグループホームで、二階はデイサービス事業所と宅老所を併設した、まさに地域の高齢者の交流に適した環境にある。開設して二年が経ち、地域とのつながりも少しずつ出来つつあり、老人会の期待も大きい。利用者は、庭でくつろいだり、ドライブやデイサービス事業所へ行き来をするなど、それぞれの時間を過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 利用者の「権利義務の明示」については、重要事項説明書に記載されており、「食事の盛り付けの工夫」に関して「服薬支援」に関しては、職員間で検討し改善がなされている。「緊急時の対応」については、職員研修等の実施はなく緊急時の対応への不安が残ったままである。また、「市町村との関わり」と「周辺施設等への働きかけ」は、事業所内の検討がされていないため、今後も計画的に取り組む項目となる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の意義に対する理解が十分とは言えず、自己評価に関しては職員間で項目を分担し作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域の民生委員・老人会長・利用者家族の出席のもと、3~4ヶ月おきに一度という不定期で開催されている。夜間開催のため行政の参加は困難であるが、今後も声かけを行っていき定期的開催を計画する予定である。地域代表の方々からも事業所への関心の高さがうかがわれ、地域とのつきあいについては貴重な意見を頂いている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年に一度、家族交流会を開催して家族の意見や要望を聞いている。出された意見は、職員間で話し合っている。また、日頃から職員に対して何でも話せる雰囲気作りに努めている。苦情窓口を地域の方をお願いしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の一員として町内会に加入し、地域行事に参加している。また、出て行くだけでなく、事業所の敬老会や誕生会に老人会長等、近所の方を招待したり、デイサービス事業を通じて地域とのつきあいの輪が広がってきている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり 楽しく 一緒に」を理念に掲げ、利用者のケアに携わっているが、地域密着型については理念の中に組み入れていない。	○	地域密着型サービスとしての役割を理解したうえで何が大切かを話し合い、ホーム独自の理念に作りあげていくことが必要である。今後、職員等とともに浸透しやすい理念を検討してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の理念については掲示を行い、また、話し合いの中で確認をすることで、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、町内会に加入し地域行事にも積極的に参加している。事業所内の敬老会や誕生会には、老人会長や近所の方々も来所し、年々交流の輪が広がっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や理解についてはまだ十分とはいえず、自己評価も職員が分担作業として行っている。前年度の改善点については、改善に至った項目とそうでない項目があり、改善計画作成までいたっていない。	○	前年度の評価結果を含め今回の外部評価も利用し、改善計画を話し合い全職員で取り組みをし、サービスの質が向上されることを期待したい。特に、緊急時の手当て(対応)については、早急に職員研修に組み込むことが望ましい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員や老人会長、利用者家族等の参加がある。出席者の都合で夜間帯の開催であり、3~4ヶ月に一度の不定期開催となっている。出席者には、地域との関わりについて積極的に意見を出してもらっている。	○	運営推進会議は、地域包括支援センターや行政職員等、幅広い立場の人の参加が望ましい。夜間開催であるため、毎回の出席は無理であっても、声かけを続けコメントや意見を事前にもらう等、工夫も必要となってくる。また、参加者から出された貴重な意見は、事業所運営に大いに活かしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは介護認定の更新時や月次報告の際のやりとりとなっている。課題解決等の相談は行っていない。	○	市町村担当者との連携強化のためにも、運営や現場の実情を積極的に伝える機会を作り、事業所の問題解決に共に取り組んでほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所だよりを不定期ではあるが発行し行事の状況を伝え、利用者の体調変化時には必ず家族に連絡・報告を行っている。年に一度の家族交流会の際には、職員の紹介や異動についての報告を行っている。	○	金銭管理や日常的な暮らしぶりについての報告は、家族等の安心を確保するためにも定期的に行うことが望ましい。事業所だよりも、今後は計画的に作成することを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会の際に意見や要望をもらうとともに、日頃から職員に対して訴えやすい雰囲気作りに努めている。苦情窓口を、地域の方をお願いしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理運営者は、馴染みの関係の重要性を理解しており、職員交代のおりには引継ぎや信頼関係づくりの重要性を話している。家族交流会で職員紹介等を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会の谷山地区勉強会が定期的であり、管理者のみならず職員も交代で出席している。事業所内での研修を進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上記谷山地区の勉強会にて、他事業所の職員と交流する機会があり、また、ともに地域行事に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	二階のデイサービスの利用者が事業所利用となる場合は、普段から行き来があるため馴染みながらのサービス利用となっている。それ以外の利用希望者は見学に来て頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、ともに過ごし支えあうという関係を築くようにしている。利用者が出来ることは利用者にして頂くということを大事にし、何かしたいという利用者の思いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりとよく話しをし、思いや意向の把握に努めている。面会時には家族からも情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に職員や家族と検討しており、利用者主体の介護計画作成をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月おきにモニタリングを行っており、毎月意向確認を行い、必要に応じて見直しをしている。その際は、職員や家族の意見や要望を勘案している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助や個別外出支援を行っている。家族の希望によっては、食事提供も可能としている。また、二階のデイサービス行事へも自由に参加するなど、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大事にしており、その上で協力医療機関の支援をもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算の中で「重度化した場合の対応、指針」は作成している。事業所の人員体制に不安があるとともに、終末期に対する事業所全体の方針がまだ明確化されていない。	○	利用者や家族が安心してサービスを利用できるように、重度化や終末期の方針を運営者や職員等と検討し共有して欲しい。更に、サービス利用の段階から家族と話し合えるよう文書の整備や職員のスキルアップ、医療機関との連携を図ってほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のケアの中では、利用者への言葉遣いや職員間の会話に配慮するように心がけている。来訪者への個人情報漏洩防止に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや希望を取り入れるような外出支援を行い、その日の体調や気分に合わせて支援が出来るよう努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の準備や配膳を能力に応じてもらい、職員も同じテーブルで食事し会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調と希望に応じて入浴支援を行っている。入浴を拒否する場合は、清拭等に対応することもある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの利用者の楽しみごとを考慮するようにしている。散歩やデイサービス交流等、思い思いの時間を過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など日常的に屋外に出るほか、適宜ドライブや行事の支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関をはじめ庭への出入りも自由に出来るようにしている。鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な消防訓練を行い、消防分団員の協力を得ている。周囲はアパート等が多く、災害時の協力はなかなか得にくいのが、民家には声かけをしている。	○	今後は、夜間を想定した避難訓練を行うこととともに、飲食物などの備蓄も必要と考えられるため、整備してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量の把握はしており、体重チェックの記録もある。	○	おやつや補食も含めて、利用者一人ひとりが必要な栄養や飲水量をどの程度とれているのかを職員全員が意識することが大切である。今後は、ホームが提供する食事がどれくらいの栄養量なのかをチェックすることを検討してほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔な共用スペースで、季節を感じられる人形や花が置かれている。居間から台所が見え、生活感のある空間がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや冷蔵庫の持ち込みをはじめ、位牌や趣味の品など利用者の馴染みの道具が多く見られる。		